

ジャパンアートマイル 10周年記念フォーラム報告

ジャパンアートマイル (JAM)

ジャパンアートマイルが発足して10年となる2015年10月、「ジャパンアートマイル10周年記念フォーラム」を国立オリンピック記念青少年総合センター(東京)で開催しました。

フォーラムでは、前半に10年の歩みと成果をアートマイルの参加者の発表で振り返り、後半に文部科学省・外務省・JICA・企業からパネリストを招いて「世界の人々と協働して未来を創造する」をテーマに議論しました。フォーラムには教師・大学・NPO団体・企業など様々な職種から多くの参加があり、「私たちはどういう未来図を描いてこれから生きていったらいいのか」について、参加者一人一人がこれからの生き方を考える機会となりました。

1. 10周年記念フォーラム

ジャパンアートマイルは、2005年に、「自分の国の伝統・文化に誇りを持ち、グローバルな視野をもって世界の人々と相互理解を深め、平和な世界の実現をめざす」という理念でスタートしました。

今年、発足10周年を記念して、「世界の人々と協働して未来を創造する」というテーマで公開フォーラムを開催しました。

【日時】2015年10月24日(土) 13:30~16:30

【会場】国立オリンピック記念青少年総合センター

【主催】ジャパンアートマイル実行委員会

【後援】文部科学省、外務省

ジャパンアートマイル
10周年記念フォーラム

テーマ **世界の人々と協働して
未来を創造する**

2015年 **10月24日(土)**

1. アートマイルの10年の歩みと成果
「アートマイルの10年の歩み」 塩飽 隆子 (ジャパンアートマイル代表)
「世界と繋がった教師と子どもたち」 本村 厚子 (鎌倉市立鎌倉小学校教諭)
「世界に飛び出した高校生」 田中 実菜 (札幌市立戸部南中等教育学校3年)

2. パネルディスカッション
「世界の人々と協働して未来を創造する」

鈴木 寛 (文部科学大臣補佐官)
三上 正裕 (外務省大臣官房参事官)
田中 雅彦 (独立行政法人国際協力機構法務室長・JICA地球ひろば所長)
大久保 晃 (株式会社内閣府行政支援センター)
※コーディネーター 藤川 忠 (東北学院大学准教授)

【日時】2015年10月24日(土) 13:30~16:30
【会場】国立オリンピック記念青少年総合センター(センター棟401号室)
東京都目黒区文王1-1-1 03-3469-2525
【主催】ジャパンアートマイル実行委員会
【協賛】文部科学省・外務省
【参加費】無料 ※当日参加可
【申込み】メール: jam@artmile.jp または電話: 0711-43-5629

2. アートマイルの10年の歩みと成果

前半は、アートマイルの10年の歩みと成果をJAM代表とアートマイル参加者の発表で振り返りました。

(1)「アートマイルの10年の歩み」



ジャパンアートマイル代表の塩飽隆子が国際協働学習を教育の現場で推進することを活動の柱としながら、国内外で展示・イベントなど様々な活動を行ってきた10年を振り返りました。



<アートマイル国際協働学習>

「アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト」は、2006年に3カ国・地域から約1,121名の児童生徒が参加してスタートし、2012年からは毎年約30カ国・地域から約5,000名が参加するグローバルプロジェクトへと成長しました。この間に、

2007年に第7回インターネット活用教育実践コンクール(文部科学省主催)で朝日新聞社賞を受賞、2008年にニューヨークの国連本部で Earth Day Awardを受賞しました。

2014年に日本で開催された「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」でアートマイルの発表と展示を行いました。これがユネスコで評価され、2015年度にユネスコパイロット事業 ”IIME:an Experimental Phase with UNESCO ASPnet Schools” がスタートしています。

<国内活動>

2007年と2008年に、ユネスコ世界文化遺産である姫路城で、平和のメッセージを込めた壁画を制作する市民参加のイベント「でっ描く！壁画プロジェクト」を開催しました。2007年には500名が参加して28枚の壁画が完成し、2008年には300名が参加して26枚の壁画が完成しました。

2011年には、東日本大震災の復興を応援する「絆プロジェクト」を JICA 中部と共催し、名古屋の中学校8校と仙台の中学校3校が「絆」をテーマに5枚の連作壁画を共同制作しました。

<海外活動>

2010年に韓国で開催された「ユネスコ第2回芸術教育世界会議」に参加して、国際理解教育としてのアートマイルの成果と意義を発表しました。同年にエジプトで開催された「平和の祭典 MURAMID 展」では日本から8名のユースを派遣し、世界で唯一の被爆国日本から世界に向けて「非核平和宣言」を発信しました。2012年にはインドネシアの環境 NGO と共催で「アートマイル環太平洋環境ユースサミット」を開催しました。

<展示活動>

国内では、美術館・JICA 施設・学会会場等で毎

年作品を展示しています。主な展示は、2009年の兵庫県立美術館36点展示、2011年の金沢21世紀美術館70点展示です。

海外では、アメリカ・イタリア・インドネシア・エジプト・オランダ・カナダ・韓国・台湾・モロッコで作品展示を行いました。

(2)「世界と繋がった教師と子どもたち」



香川県観音寺市立観音寺小学校の木谷厚子教諭は、2009年度よりアートマイルに参加して、世界に開く広い視野を持つ子どもの育成に取り組んでおり、その実践と成果を発表しました。



<要旨>

未知の世界との出会いにワクワクする仕掛け、相手がいる実感が持てる仕掛け、伝えたい思いを形にする仕掛けなど、子どもの心が動く仕掛けを次々と作り、子どもたちに様々な違いを超えて世界の他者と関わり合う楽しさを味わわせることで、自分を見つめ、地域や国を愛する子どもを育てる国際協働学習を実践してきました。

昨年度は若手教師をアートマイルに参加させて、広い視野で捉え総合的に考えられる教員、グローバル社会の形成者としてのスキルを身に付けた教員、信頼に支えられた協同の学びの場を作り出せる教員の育成を試みました。その結果、教員のコミュニケーション力・人間関係力・情報活用能力が高まったように思います。

(3) 「世界に飛び出した高校生」



兵庫県立芦屋国際中等教育学校6年生の田中宏果さんは中学3年生の時に学校でアートマイルに参加し、JAM 主催の「アートマイル 環太平洋環境ユースサミット」に参加したことがきっかけで将来の夢に向かって具体的にアクションをとるようになり、昨年夏から1年間フランスの高校に留学しました。この3年間の心の変化とこれからについて語りました。

参加したことがきっかけで将来の夢に向かって具体的にアクションをとるようになり、昨年夏から1年間フランスの高校に留学しました。この3年間の心の変化とこれからについて語りました。



<要旨>

ユースサミットに参加したことで世界に貢献する仕事がしたい、国連開発計画で働きたいと思うようになりました。国連の公用語であるフランス語を学ぶためにフランスに留学しました。留学は外から客観的に自分を見つめる機会となり、どこで何をするにしても自分にしかできないことがあることが自分という唯一の存在をつくることになる気づきました。大学は欧米ではなくマレーシアの大学に行くことを考えています。人と違うことに挑戦する

ことが自分にしかできないことを見つけることに繋がると思うからです。国連に入ったら開発の分野で現地の人と技術者を繋ぐ仕事がしたいと思います。そして、将来は国連での経験を元に国際開発事業を立ち上げたいと思っています。

3. パネルディスカッション

各分野でグローバルに活躍しているパネリストが、「これから私たちはどう世界を生きていくのか」「世界の人々と一緒にどんな未来を創っていたらいいのか」について論じました。

<テーマ>

「世界の人々と協働して未来を創造する」

<パネリスト>

鈴木 寛 (文部科学大臣補佐官)

三上 正裕 (外務省大臣官房参事官)

田中 雅彦 (独立行政法人国際協力機構広報室長・JICA 地球ひろば所長)

大久保 昇 (株式会社内田洋行代表取締役社長)

※コーディネーター

稲垣 忠 (東北学院大学准教授)

ディスカッションはパネリストが次の3つの質問に答える形で進められました。

- ①これまで世界とどのように関わってきたか
- ②未来の世界(2030年頃)はどうか
- ③私に何ができるか



<パネリストの発表要旨>



鈴木 寛
文部科学大臣補佐官



OECD(経済協力開発機構)の Education 2030 に関わっている立場から言うと、2030 年頃は多くの仕事が人工知能に置き換わっているでしょう。その時に人工知能では代替できない仕事、人間にしかできない仕事は何か? OECD ではそれを「Collaborative problem solve 協働して問題を解決する力」であり、「Global Competency 違った文化の人達と協働する力」と言っています。

自分はこの人間にしかできない仕事を「Creative Collaborative Art Work」と呼んでいます。これから未来に人間に必要とされる力は、「無から有を生む Creation」、「違うバックグラウンド、違う才能を持った人達が協働して一つの形を作る Collaboration」であり、「唯一無二の存在同士が出会って一期一会の事を成し遂げる Art Work」であると考えています。これからは Creative Collaborative Art Worker を育てなければなりません。



三上 正裕
外務省大臣官房参事官



東西冷戦崩壊直後アメリカ主導で自由民主主義が広がれば安定すると思われましたが、25年経ってみるとアメリカの力は低下し、世界は多極化と混乱の時代となっています。自由民主主義+市場経済が壁にぶちあたり、テロが多発する不安定な社会では、軍事力のようなハードパワーだけでは問題を解決できません。

これからの世界の問題解決には国家としての魅力「ソフトパワー」が重要です。日本はソフトパワー(伝統、文化、食、科学、サービス等)が非常に優れており、その力で世界の安定に貢献ができるはずです。ただし、世界を見ずに自己満足して傲慢になってはいけません。外を見て世界に学ぶ姿勢を持ち、日本を相対化して客観的に見るのが大切です。



田中 雅彦
独立行政法人国際協力機構広報室長
JICA 地球ひろば所長



私たち日本人の生活は途上国の産業の上で成り立っているということに目を向ける必要があります。2030年頃は絶対的貧困は減少するでしょうが、国は発展しても格差は拡大するでしょう。格差問題は今後も重要な課題になると思います。

これから必要なグローバル人材は、多文化適応力+コミュニケーション力+問題解決力を持つ人であると思います。日本人は「知」と「経験」を海外に輸出して、その国の人々と「Co-creation(共創)」して問題解決するのがいいでしょう。一方、グローバル化とは外へ出て行くだけでなく、日本の中に移民・難民を受け入れることでもあります。一国平和主義から脱却して、移民・難民を受け入れ、グローバルな国になるべきだと思います。



大久保 昇
株式会社内田洋行代
表取締役社長

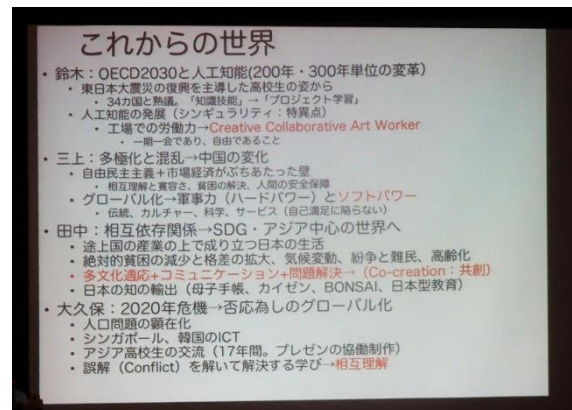


16年前に初めて海外視察をしたときに、海外のIT教育がいかに進んでいて日本がいかに遅れているかに驚きました。そのとき、世界から学ぶことが多くありましたが、それ以上に日本を客観的に知ることができました。

これからの日本を考えると、「2020年危機：人口問題の顕在化、少子高齢化」が目前です。日本に居ても世界に居てもグローバル化の波は必ず来ます。日本がグローバル化し、世界を受け入れて多国籍化するしかありません。日本の特性を活かして他国とどう組み合わせるかを考えるべきです。違う者同士が協働しようとするとき「Conflict(衝突)」があつて当たり前です。Conflictを解いて相互理解を深め、問題を解決していくことが重要です。



稲垣 忠
東北学院大学准教授



コーディネーターとして、フィールドが異なる4名のパネリストから「2030年頃の未来を念頭に、私たちはこれからどう生きていけば良いか、何ができるか」について異なる視点から重層的な議論を引き出し、的確なまとめを示しました。

参加者一人一人がこれからの生き方を考え、ヒントがもらえるフォーラムとなりました。

4. 参加者の反応



・予想を超える充実した内容で感激しました。とにかくすごい会でした。

・木谷先生の実践にも田中さんの今後の生き方に対する宣言にも心を打たれました。パネルディスカッションは、文科省・外務省・JICA・実業界と普段はあり得ない取り合わせのパネラーが未来を語るという内容はすごかったです。

・内容的にはどれも傾聴すべき意見ばかりでした。アートマイルで日本人として参加した子供たちが、将来は国と国との間のコーディネーターになっていくという夢が描けたらと思いました。

・アートマイルのすばらしさを実感し、今後の可能性を感じた一日でした。

・現場で実際に取り組みをされている先生方は、アートマイルを通して経験された教え子さんたちの表情や言葉、行動からもすごい手ごたえを感じていました。これは凄いことです。

・つい目の前のことばかりに気を取られていますが、今日の話聞いて広く世界のことに目を向けることを忘れてはいけないし、2100年に自分の子どもが生きていると考えたらもっと遠くを見ないといけないと思いました。

5. これからに向けて

今後ますますグローバル化が進む中で、世界の人々と協働して未来を創造する次世代の育成はもはや時間に猶予がない課題です。

フォーラムでの数々の示唆に富んだ意見を参考にし、ジャパンアートマイルが10年間で蓄積したことを活かし、グローバルなネットワークを拡げて、未来の世界の持続可能な発展と平和のためにこれからも新たな挑戦を続けたいと思いを新たにしました。